

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2775003060		
法人名	有限会社 三栄		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	〒577-0846 東大阪市岸田堂北町5-6 (電話) 06-6728-3016		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10ATCビル1TM棟9階		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】(2009年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4 .	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(29,400 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(5年) / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田内科クリニック、今中歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近鉄俊徳道駅下車徒歩10分、元工場を倉庫に利用しているところや古くからの住宅、新しいマンションなどの交じった庶民的宅地にある。まさに住み慣れたところに住み続けるグループホームと言える。管理者はグループホームを開設し6年目に入った。更に施設運営を充実させたい、外部評価をよりよいホームづくりに活かしたいと意欲的である。職員に対してはきめ細かい配慮で職員の定着率が高く、管理者と職員の意思の疎通が良い。開所当時から入居者が多く入居者同士仲が良い、少々狭いリビングもかえって家庭的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を職員とともに意見交換し「今年度の目標として取り組み始めたが日常業務に押し流され目標を達成しないまま今回の受審になった」との話であった。「毎月のホームの便り」は出せていないが、毎月の報告事項には季節の雰囲気のあるもの作成して送っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みで、つい見落としがちなところを再認識できたとのことである。外部評価を受けて今年度の目標の指針にしていきたい、との管理者・職員からの意欲的な発言があり期待していきたい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議はまだ定着しているとは言えない。地域の自治会長、民生委員は出席して地域のかかわりについて自治会長は協力的である。市担当者は包括支援センターに出してもらうように言い、包括支援センターも出席はしてもらっていない。今後の課題である。地域の盆踊り、だんじり祭りなどは入居者が楽しめるよう町会でも配慮してくれている。町会のバス旅行には体力的に可能な入居者は参加している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族がどのように感じているかは管理者も気になっている。入居者の多くは開所時からの利用であることから、高齢化は進んでいる。其のことに對する本人家族の不安に応えられる運営の構築を願う。家族もおおむね満足しているが、苦情・要望、其の対応などを記録に残し、更なるホームの充実を図りたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携は出来ている。ホーム入居者もだんじり祭り、盆踊りは地域の一員として楽しんでいる。傾聴ボランティアとして近所の方が来てくれて、入居者も大変喜んでいて、定期的な来訪に発展していくことを期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個々の尊厳の尊重」、「家庭的な雰囲気の中での生活支援」、「地域とのふれあいと心豊かな生活」という運営理念を掲げている。		理念は一目瞭然の言葉で、来訪者にはホームの姿勢を表明し、職員には常に目にする事で仕事に対する自覚を促すことになる。管理者は玄関をスッキリさす為に張り出すことに抵抗を感じている。掲示場所はリビングでもいいと考える。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示しており、ミーティング等で、スタッフには周知している。		理念に問題は無いが掲示する言葉は分かり易く、簡潔にされることが望ましい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の挨拶、気軽に声をかけ、ホームの活動状況や予定などを報告している。入居者各自が自治会費、老人会費を払い、地域と交流し、活動にも参加している。町会の日帰り旅行、敬老会、市民まつり、だんじり曳行など行事へも参加。		管理者も地域の役員を務め、秋祭りのだんじり曳行をホームの前に来てもらい、入居者も楽しむことが出来た。地域のバス旅行にも参加できた入居者もいる、など地域との交流はよく出来ている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解し、質の向上に向けた取り組みを少しずつではあるが行っている。		外部評価を通し、入居者に更に満足をしてもらいたいと言う意欲が話の中から窺えた。職員に対しても評価の意義は浸透している。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>日々の暮らしぶりや、活動状況を報告している。</p> <p>また、委員からの意見などについても、精査しながら取り組むように努めている。</p>		<p>会議の参加は地域代表、家族、管理者、運営者が出席、積極的意見も出て運営推進会議は機能している。市町村・包括支援センターに依頼しているが実現できていない。会議の議事録などを届け今後の参加実現にむけ更なる努力を期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>積極的にこちらから機会を持つこともなく、実績としてはない。</p>		<p>東大阪市は包括支援センターに任せたとすることで積極的でないとの事である。どんなことでも行政との連絡を密にし、法令の改正などに対する対応に機を逸することの無いようにされたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お手紙や写真を送り近況報告としている。</p>		<p>毎月の個人的な報告だけでなくホーム全体のことや季節行事の予定などホーム便りを作ることを視野に入れているとの事である。これからを期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設置しており、それ以外の大小様々な不満、意見についても、全職員が周知できるように記録しており、改善に向け努めている。</p>		<p>苦情受付機関について重要事項説明者などには明記している。直接ホームに言いにくい場合も想定し玄関に行政機関の苦情受付先電話番号を掲示し、苦情箱も置かれない。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>送別会など行い、入居者にも納得してもらうようには努めている。</p>		<p>職員の異動は少ないが退職時は送別会を開き、退職後もホームに遊びに来て入居者との交流もあり、入居者も喜んでいるようである。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、必要に応じて、外部研修も参加してもらっている。		職員は殆どが当「グループホームほほえみ」のみの勤務者が多く、研修を通して視野を広めることを自覚して積極的に受講している。管理者も勤務扱いで受講を支援している。今後は計画的な研修参加をされたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のサービス事業者とも、定期的に交流の場を持ち、意見や情報の交換を行い、質の向上に努めている。		他のサービス業者との交流はあるが、同業者との交流は出来ていない。研修に参加をすることで交流の機会を増やしていきたいとの事である。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは体験的に日中を一緒に過ごしたり、職員を自宅に派遣して、生活状況を観察したりして、無理なくサービスを利用できるように工夫している。		体験の利用はかなり有効と思われる今後とも続けられたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の人生・価値観に共感し、信頼関係を築くように努めている。		職員に高齢の人もいて入居者も話しやすいと思われる。じっくり話し相手になることも介護の重要な仕事である。今後ともゆっくり話を聞く時間などを作られたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>スタッフ側の都合を押し付けるのではなく、入居者本位に立った思いやりあるケアを実践している。</p> <p>意思疎通の困難な入居者についても、これまでの生活歴、習慣を考慮し、本人らしくあり続けるためのケアに努めている。</p>		<p>入居者の大半はの入居期間も長く家族のようにして暮らしている。入居者同士が思いやりを持っていると言う様子も見られた。一人ひとりの思いを取り入れた介護がされている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの課題・ニーズの把握に努め、その都度評価を行い、それを反映した介護計画の作成をしている。</p>		<p>介護計画の作成に際しては介護職員・看護師、・医師と意見の交換をし、現場の意見も取り入れた介護計画を作成している。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一定期間をおいて、モニタリングを行い、その都度計画の見直しをおこなっている。</p> <p>担当者会議にて、各関係者より意見をまとめ、計画に反映させている。</p>		<p>介護計画の更新は年1回である。体調の変化の見られたときは其の都度見直しているとの事である。高齢者であり体調の変化も考えられる、もう少し短期間の見直しを更新期間とされることを求める。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者が安心して生活ができるように、希望や必要とされることは、可能な限り取り入れながら、柔軟な支援を行っている。</p>		<p>事業は他にはしていない。グループホームの運営のみである、他のサービスの利用なども取り入れ、入居者の日々の生活を変化があり、又機能維持が図られる支援を期待する。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回、内科医による往診にて健康管理を行うと共に、必要に応じて専門医の受診ができるように支援を行っている。		内科医の受診週1回、看護師週2回バイタルチェックに来て貰っている。希望によりまた必要に応じて専門医の受診が出来るとの事である継続されたい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を定め、本人・家族にも説明し同意を得ている。また、スタッフ全員にも共有している。		年々高齢になってゆくことは当然であり、終末期についても家族との話し合いで対応の指針は作ってあり同意を得ている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩など無いように、記録を整備し保管している。		書類の管理は事務室に保管し、職員についても秘密厳守を徹底させている。退職者についても秘密厳守を取り決めている。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを優先しながら、主体的に活動できるように見守りをしている。		ゆったり、静かに過ごすことが入居者にはいいことばかりでは無い。体力減退を緩和するためにはある程度の運動も必要で有る。散歩、買い物など身体を動かし且つ楽しむことへの支援を更に進めていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは可能な限り入居者と職員が協力し、食事を楽しみあるものになっている。		献立は2週間分くらいを職員が入居者の好みや要望を聞いて立てている。朝食はパン食が多いがパン食が嫌いな入居者にはご飯と味噌汁を作っている。全般的に緑色野菜が少ないように見られる。この点の改善をされたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定曜日に入浴日を決めているが、希望があれば、いつでも入浴してもらえるようにしている。		入浴は月・木曜日に決めているが他の日でも対応するようにしている。入りたがらない入居者には特に気が向いたときを優先して入るように支援しているとの事である。更なる努力を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特別な支援はしていないが日常生活の中に職員が利用者に相談や決定できるような支援がおこなわれている。また、趣味や楽しみをもって生活してもらえるように、入居者が、主体的に過ごせるように支援している。		食事の味付けや日常生活の中、相談や決定に関わるような機会を各スタッフが支援していることは評価できる。今後、高齢が進み昔の趣味が続かない入居者にも、今出来る楽しみごとを見つけて支援していただきたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物など気分転換も兼ね、希望に応じて支援をしている。		真冬と真夏以外は近くには買い物に行ったり散歩に行ったり、時には車で鶴見緑地まで行くときもある。ホーム内だけでなく戸外に出る支援を続けられたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠されているが、昼間は玄関口も鍵をかけていない。玄関にはセンサーが設置され、危険は防止されている。また、急な外出の要望にも近隣公園へ付き添って対応している。		鍵を掛けなくても入居者が徘徊したということも少ない。センサーが設置されていることで安全は確保されている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難マニュアルの周知を行っているが、具体策を講じる必要あり。今後、地域の方々にも協力してもらえよう働きかけていく。		防火訓練は認識不足で必要と分かったのは最近であった、防火管理者を決め避難訓練を年2回するよう消防署より指導を受けたとのことである。避難通路の確保、誘導の仕方は日頃の訓練が物を言う。消防署の指導をしっかりと受け止めて実行していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自入居者の食事摂取量は記録されている。水分摂取量の記録はないが、食事のときやそれ以外のときなどでも水分を摂るようにしている。		食事の摂取量・水分の摂取量の記録はあるが、個人の記録にはなかった。毎日転記しなくても1週間の変化などを個人記録に転記し、個人の体調の変化を知るデータに生かされたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からトイレ、浴室は近くにあるが、カーテンなどで仕切り、音や臭いなどに配慮している。		個人の居室入り口にはそれぞれ趣の違う暖簾が掛けられている。廊下は広いがリビング少々狭いのは致し方ない。玄関には冬から育てられてきた花が満開になり入居者と職員の努力が窺われた。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた持ちものを使用してもらい、混乱なく安心して過ごしてもらえるように工夫している。		自宅から気に入ったものや家族の写真を持って来ている入居者もいる。住み慣れて自分の部屋という設えになっている部屋が多く見受けられた。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。